

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600162		
法人名	大都美装株式会社		
事業所名	グループホーム明日葉(2階ユニット)		
所在地	吹田市南吹田2丁目3番16号		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ホーム設立より3年。長くお住まいの方が「我が家」と思えるような支援を心がけている。自分の役割を持ち、日常の決まり事が習慣となり、職員を家族のように思っていたけりよう、声掛けや傾聴に力を入れている。②食材が高騰しても、必ず旬の野菜をふんだんに取り入れた手作りの家庭料理を提供している。「焼き焼きが食べたい」「にゅう麺なら食べられる」等のご要望に応じている。③地元の方と散策時に声を掛け合うなど、地域の住民として暮らせるように支援している。ホームの間にJR駅が数年後に完成する日を心待ちにし、「これで新大阪までいくと、東京まで新幹線で行けますね」と近い将来の目標が持てるように支援している。④1階の駐車場を、10/11にディに改築した。ホーム以外の職員や地域の方との交流の場として利用できるよう、ホーム全体で支援できる体制をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の大都美装(株)は、50有余年の歴史をもつビルメンテナンス企業である。清潔で心地よい環境作りを生業として現在に至っている。経営者は吹田市の在住で、地域の住民の高齢化が進む中で地域に少しでも恩返しをしようと一念発起、3年前に高齢者福祉事業に参入、当事業所を設立した。管理者、職員の高齢者福祉に対する想いはあつく、両親や将来の自分たちが入りたいと思える施設に作りあげて行く努力をしている。経営母体がビルメンテナンス企業だけあって、掃除は隅々まで行き届いている、全く塵一つ無いのは清々しい。それに、食にたいするこだわりも素晴らしい。調理担当職員がいて、日々利用者に好みを確認しながら献立を考えている。しかも、地元の食材を使用しながら利用者の健康な暮らしに貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で深める優しさの絆 食事が育む健康な暮らし」を事業所理念とし、管理者及び職員全員が共有し実践につなげている。	事業所独自の理念を職員全員で作りあげ、リビングルームに掲示している。管理者と職員は、その理念を朝の申し送り時に唱和しながら共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催しホームの活動状況や事故報告の開示をする等、ホームの取り組みを地域に理解して頂けるよう実践している。自治会に所属し、入居者が近隣を散歩する際に世間話ができるほど、地域に馴染んできている。	地域の中の一員として、地域の行事に参加するだけでなく、自治会に加入して防災訓練に参加したりキャラバンメイトとして地域に貢献するなど、双方向で日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座講師資格を、ホームのケアマネ二人が取得し、認知症の方を地域で支援するよう啓発に努めている。訪ね易くなった1階ディの門戸を地域の「認知症による困りごとの相談窓口」として開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々には度重なるご配慮やお力添えを頂き感謝に絶えない。今後も貴重なご意見に耳を傾け、サービス向上に努めたい。認知症の方を地域で支える具体的方策を、会議で議論しながら共に作りあげていきたい。	利用者家族、自治会長、民生委員、市役所職員、事業所職員等が参加して隔月に開催している。そこでは事業所の状況報告だけではなく、参加者からの意見や提案を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業者連絡会の世話役として、他の事業所を始め市介護保険課の担当者と連携を密にしている。地域包括支援センター、障害福祉課や生活福祉課、介護保険課監査室とも積極的に連絡をとりサービス向上に努めている。	吹田市内14事業所のグループホーム連絡の世話係をしながら、常に介護保険課、障害福祉課、等々と連携を保ちながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「4点柵の禁止」「ユニット玄関の施錠禁止」「スピーチロックの禁止」等、身体拘束排除の取り組みはできている。建物玄関は防犯対策として電子ロックにて施錠しているが、内部からは容易に開錠できる仕組みになっている。	事業所の管理者および職員は、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を十分理解し、事業所内は1～3階まで自由に行き来出来るようにするなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の指導の下、「高齢者虐待防止関連法」についてユニット毎にマニュアルを作成し、虐待と思われる事例を発見した際の通報先を掲示し啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士であり、権利擁護に関する制度を周知している。ご家族より成年後見制度についての相談があれば、仕組みや申請方法の説明、精神科医の鑑定診断の支援をし、入居者や家族の便宜を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇にご意見箱を設置している。面会等の機会ある毎にご家族と話し合う時間を持ち、ご意見を伺いながら運営に反映させるよう努めている。管理者、もしくは担当ケアマネが毎月通信を発行している。	利用者とは、日頃の会話や様子の中から、また、家族等とは面会等来訪されたときに話し合う時間を持ち、意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年毎に職員の個別面談を代表者と管理者が行っている。ユニット毎のミーティングや、申し出があれば個別に意見や提案を聞き、会議で検討した上で、職員にフィードバックしている。	管理者は日々の関わりとフロアミーティング等で職員の意見を聴く機会を設け、シフトの希望、ケアに対する関わり方など出た意見を運営に反映させるようにしている。しかし、全体ミーティングは定期的には実施していない。	会議の実施が不定期であるため、職員の気づきやアイデアを出す機会が不足している。会議を定期的の実施し、職員の意見や情報をしっかりと取り入れるようにして欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のシフト希望は可能な限り優先的に叶え、労働意欲を高める努力をしている。雇用契約の変更の申し出は可能な限り受けている。半年ごとの評価時には「前向きになれる評価」を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者には2級ヘルパー取得を勧め、介護福祉士を取得する支援をしている。就業中に気づいたところで声をかけ、日常の小さな事柄や基礎を確認する作業を積み重ね、基本に忠実かつ応用が利くよう指導している。外部研修を増やしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡会に所属し、交流は活発である。現在管理者が世話役をしており、他の事業所を訪問する機会が増している。今後も継続し、お互いのイベント交流を企画し、利用者同士の交流が図れることを期待している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	警戒心を解くための努力を惜まず、信頼関係が構築できるよう柔らかな姿勢で話しかけ、本人の不安や困りごとに傾聴するよう、関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族の思いにしっかりと傾聴し、家族の信頼を得た上で、家族を含めた支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階では混乱しておられる場合が多いので、主訴に傾聴しながら隠れたニーズを見極め、解決できるように支援している。他のサービスが望ましいと思われる場合は、適切な助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることには介入せず、困ったことがあれば共に行う姿勢で支援している。共同生活を営む当事者同士で解決できる場合は、敢えて介入せず、側面から支援する姿勢で臨んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からのサービス提供ばかりでなく、ご家族からの協力も頂き、利用者全体を共に支えあう関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の知人やかつての支援者のボランティア訪問を迎えいれている。昔親しんだお稽古事や趣味が再開できるよう、馴染んだ生活が保たれるような支援に努めている。	これまでの地域社会との関わりを継続していくために、家族等やボランティアの協力を得ながら、利用者一人ひとりの馴染みの場所へ行ったり、友人に出会ったりするように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室に閉じこもらず、他の入居者の部屋を訪ねたり、リビングで共に過ごし歓談したり、恋人同士のようにソファでくつろぐことができる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても、面会に行くなど継続して支援に努めている。亡くなられた方のご家族にも近況を尋ねるなど心理面での支援をしている。入所希望の問い合わせだけの方でも、いつでも気兼ねなく相談して欲しいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに焦点をあてたモニタリングを重ね、ケア計画に反映するよう努めている。新規入居の方の場合は、本人本位でアセスメントをしっかりと行い検討している。	毎日の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、三味線等お稽古事の手伝いをするなど、出来る限り希望にそった支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できている	介護計画の期間は一応3ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、体調の変化が起きた時には、そのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら実践し、ケアプランの見直しに活かすことは概ねできているが、日々のケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入するところが、未だ不十分である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に柔軟な支援が出来る事業所でありたい。昔馴染んだ趣味やお稽古に通う実践を試みたが、残念ながら退所された。ディサービスが開所したので、ボランティアを定期的に受け入れ、入居者と地域の方が一緒に楽しめる工夫をしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会の方々の力をお借りしながら、認知症があっても一地域住民として暮らせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医に通院するか、ホームの往診の医院で受診するかを選んでもらえる仕組みになっている。いつでも変更可能であり、本人及び家族の意向を尊重し、適切に支援している。	本人や家族等と相談しながら、事業所の協力医に往診して貰うようにしている。しかし、今までのかかりつけ医の受診も家族と相談しながら支援するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切にできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、本人とご家族に早い段階で説明している。重度化の兆しをいち早く読み取り、医療機関との連携を密にし、ムンテラを重ね、事業所でできることを説明しチームで支援している。	重度化した場合や終末期のむかえ方については、利用当初に事業所の指針を元にして事業所として出来得る事を家族等に十分に説明し同意書も交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、緊急時に必要な書類等は取り出せるように職員に周知徹底している。今後は常勤看護師による応急手当や初期対応の訓練を定期的に行いスキルアップしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携し、年2回(1回は夜間想定)の訓練を実施している。	年2回消防署立ち合いで地域住民にも協力頂き、夜間想定も含め避難訓練を実施している。夜勤の1ユニット1人体制でエレベーターホールに避難誘導させる対策を立てている。しかし、備蓄備品は充分ではない。	火災や地震、水害等非常災害に備えて、非常食、水、寒さをしのぐための衣料等の準備が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例えば、居室は個人の家と考え、入室する際は必ず本人の許可を得てから、を徹底する等、概ねできているが、更なる研修を重ねスキルアップを目指している。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも各ユニットの事務所に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうされましたか?」「何をお探ですか?」等困っている様子が見られると「開かれた質問」で問う事を心がけ、本人が応え難い時は「閉じられた質問」で問う等工夫をしているが、更なるスキルアップを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはご自身で選んで頂く等、個性を尊重した支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは入居者の自発的な意思を尊重し随時対応している。職員と一緒に食卓を囲み、和やかに食事を楽しんでいる。白米にふりかけや梅干を乗せる、お粥を選択できる等の仕組みになっている。	食事担当の職員が利用者の希望も聞きながらメニューを決めている。利用者と職員が楽しく語らいながらの食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。訪問歯科医と衛生士の指導の下、適切なケアが行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に支援している。	各フロアの職員は、一人ひとりの排泄パターンや習慣、サインを把握している。さりげなく声掛けをして排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維が豊富な野菜やきのこなどを多く取り入れる、おやつにヨーグルトを提供する、十分な水分摂取に向けて個別に飲み物の工夫をする、散歩や運動をするなど予防取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向をまず尋ね、個々に添った支援をしている。	入浴の声掛けは2日毎にしているが、午前午後の区別はせずに、利用者一人ひとりのその日の体調の変化を配慮しながら、個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だった方は一緒にする、新聞を読むのが日課の方にはホームで新聞を定期購読する、様々なジャンルや時代の音楽を流す、日替わりでレクリエーションをする、併設のディヘでかける等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やコンビニへの買い物など、本人の希望に添って支援している。スーパーへの買い物や季節の移り変わりが感じられるドライブなど、戸外での過ごし方を取り入れている。	日々の散歩は、事業所の周りやコンビニ、スーパー、市のお花畑など、その日の利用者の希望に添って支援している。お花見の時期には、江坂公園や五反田公園などへも出掛ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の意向を踏まえ、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の扉、個別の壁紙、カーテンでの採光調節、エアコンでの室温管理等快適に過ごせる工夫をしている。リラックスできる音楽を流し、ホームでのイベントの写真や季節を感じる装飾などを掲示し、入居者や家族に笑みがこぼれ、職員とも会話が弾む工夫をしている。	ゆったりしたリビングルームでは、利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には季節感のある展示物があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のTV前にソファを置いたり、リビングのテーブルを一部離す、バルコニーには好きな時に出ることができる、いつでも好きな方の部屋(了解があれば)を訪ることができる等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や時計を置く、家族の写真飾る等好みに応じて馴染みの環境を継続できる支援をしている。安全確保のために、離床センサーを設置したり、ナースコール、スプリンクラーを完備している。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるための工夫が見られる。各居室の壁紙が統一でなく部屋毎に変えているのも特徴的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをめぐらし、扉を開けやすい引き戸にし、床の段差をなくし、物理的な自立支援の工夫をしている。トイレの場所の明示や、個室には表れや写真を掲げわかり易くしている。		